

教 授 会 メ モ

6月19日（水）定例教授会

理学部4号館1320号室

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて
- (3) 学部研究生の期間延長について
- (4) 人事委員会報告
- (5) 教養学部連絡委員会報告
- (6) 会計委員会報告
- (7) 企画委員会報告
- (8) 理学院計画委員会報告
- (9) その他

7月17日（水）定例教授会

理学部4号館1320号室

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて
- (3) 学部学生の休学について
- (4) 東京大学理学部附属天文学教育研究センター規則の一部改正について
- (5) 人事委員会報告
- (6) 教務委員会報告
- (7) 会計委員会報告
- (8) 企画委員会報告
- (9) 理学院計画委員会報告
- (10) その他

理学博士学位授与者

◎平成3年4月22日付学位授与者◎〈5名〉

専攻	氏名	論文題目
論文博士	柴山悦哉	オブジェクト指向方式による並行システムのモデル化に関する研究
論文博士	岡本裕巳	フェムト秒時間分解コヒーレントラマン分光法による分子の振動緩和の研究
論文博士	沢辺恭一	MgO表面への化学吸着及び吸着サイトに関する ab initio 分子軌道法による研究
論文博士	森沢幸子	サケ科魚類における精子運動能獲得機構の研究
論文博士	森田龍義	タンポポ属の種生物学的研究－Mongolica 節、Ruderalia 節を中心に－

◎平成3年5月27日付学位授与者◎〈5名〉

論文博士	中島啓	ALE空間上の反自己双対接続のモジュライ空間
論文博士	高村禎二	自由曲面の形状モデリングに関する研究
論文博士	水谷亘	走査型トンネル顕微鏡及び分光法による吸着物質の測定
論文博士	金城典子	担子菌類の脂質成分に関する研究
論文博士	西山敏夫	再構成コラーゲン線維ゲル内培養におけるヒト皮膚線維芽細胞の特徴

◎平成3年6月24日付学位授与者◎〈7名〉

専攻	氏名	論文題目
物理学	水野英一	ボイジャー海王星電波科学データの相干性な重ね合わせ：データ解析及び観測精度の向上
地球物理学	長谷川正樹	微惑星のランダム速度と統計的性質
論文博士	窪田政一	シリコン清浄表面の相転移および金-シリコン界面でのシリサイド形成の研究
論文博士	北和之	酸素族夜間大気光の励起・緩和過程
論文博士	渡邊誠一郎	微惑星の衝突および相互作用
論文博士	西本右子	塩化ナトリウム低濃度水溶液における特異的溶質-溶媒間相互作用の研究
論文博士	小川卓克	非線型シュレディンガー方程式の弱解の挙動

◎平成3年7月16日付学位授与者◎〈2名〉

地理学	篠田雅人	熱帯アフリカ半乾燥地における干ばつの気候学的研究
論文博士	中田仁	N=30同中性子核における混合対称状態の殻模型による研究

人事異動報告

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理学	教授	藤川和男	3. 6. 1	併任	本務：京都大学基礎物理学研究所教授 期限：3. 9. 15まで
化学	講師	葉袋佳孝	〃	昇任	助手より
数学	教授	柏原正樹	3. 6. 16	併任	本務：京都大学数理解析研究所教授 期限：4. 3. 31まで
地球惑星	助教授	杉ノ原伸夫	3. 7. 1	昇任	気候システム研究センター教授へ
〃	〃	住明正	〃	昇任	〃
〃	〃	中島映至	〃	配置換	気候システム研究センター助教授へ
植物	〃	河野重行	3. 7. 16	昇任	助手より
人類	講師	諏訪元	〃	〃	京都大学霊長類研究所助手より
生化	教授	横山茂之	3. 8. 16	〃	助教授より
地質	〃	鳥海光弘	〃	〃	〃
植物	助教授	中野明彦	〃	〃	講師より
天文研	〃	中田好一	〃	〃	天文学科助手より

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理学	助手	島津佳弘	3. 6. 1	採用	
人類	〃	針原伸二	〃	〃	
情報	〃	吉田宣章	3. 6. 30	辞職	
地理	〃	小口高	3. 7. 16	採用	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
植物	助手	酒井 敦	3. 8. 1	採用	
物理	"	相原 博昭	3. 8. 15	辞職	

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
動物	技官	曲 輪 美 秀	3. 7. 16	採用	
事務部	経理掛 学際主任	神 田 博 道	3. 8. 1	配置換	情報科学科事務室主任より
情報	事務室主任	斎 藤 岳 己	"	"	経理掛学際主任より
事務部	事務官	鹿 又 仁 郎	"	勤務換	庶務掛より教務掛へ
"	"	安 西 三喜男	"	"	人事掛より庶務掛へ
"	"	増 田 真由美	"	"	情報科学科より人事掛へ
情報	"	高 橋 喜 博	"	"	教務掛より情報科学科へ

外国人客員研究員報告

所属	受入れ教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
物理学科	一丸教授	インド	KALIA, Rajiv K	ルイジアナ州立大学 教授	平3. 6. 20 ~ 平3. 8. 21	
物理学科	大塚助教授	連合王国	BRINK, David M	オックスフォード大学 リーダー	平3. 8. 21 ~ 平3. 9. 25	
"	"	ドイツ連 邦共和国	GELBERG, Adrian	ケルン大学原子核物理学 研究所 教授	平3. 9. 17 ~ 平3. 12. 17	
化学科	田隅教授	中華人民 共和国	ZENG, Ze Gen 鄭 澤 根	重慶建築工程学院 教授	平3. 4. 18 ~ 平4. 6. 18	平3. 4月教授 会報告済の延 長：延長前期 間3. 4. 18 ~ 3. 10. 1で了承さ れたもの
化学科	増田教授	中華人民 共和国	HUANG, Min 黄 敏	武漢工科大学材料研究 センター 講師	平3. 8. 1 ~ 平4. 3. 31	
生物化学科	山本教授	連合王国	HUGHES, David Anthony	Postdoctoral Fellow	平3. 7. 18 ~ 平4. 4. 30	
生物学科	尾本教授	中華人民 共和国	HAO, Luping 郝 露萍	中国科学院遺伝研究所 助教授	平3. 6. 5 ~ 平3. 8. 7	平3. 3月教授 会報告済の変 更：変更前期 間3. 5. 10 ~ 3. 8. 9で了承 されたもの

海外渡航者

(6月以上)

所属	官職	氏名	渡航先	期間	目的
数 学	助 手	宇 澤 達	ア メ リ カ 国 合 衆 国	3. 8. 15 ~ 4. 6. 2	リー群論に関する講演及び研究のため
数 学	講 師	河 東 泰 之	ア メ リ カ 国 合 衆 国	3. 7. 31 ~ 4. 8. 2	作用素環論についての研究のため
植 物	助 手	園 池 公 毅	ア メ リ カ 国 合 衆 国	3. 8. 5 ~ 4. 3. 26	アナベナ光化学系 I についての研究のため
地 質	助 手	小 澤 一 仁	ア メ リ カ 国 合 衆 国	3. 6. 1 ~ 4. 3. 31	「上部マントル物質の岩石学的研究」遂行のため
素 粒 子	助 手	森 俊 則	ス イ ス フ ラ ン ス	3. 8. 16 ~ 4. 2. 12	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
素 粒 子	助 教 授	駒 宮 幸 男	ス イ ス フ ラ ン ス	3. 8. 20 ~ 4. 10. 16	電弱統一理論の検証のデータ解析及び国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
素 粒 子	助 教 授	小 林 富 雄	ス イ ス	3. 9. 13 ~ 4. 3. 31	超対称性粒子探索用プログラムの開発のため

平成 3 年度科学研究費補助金理学部申請・採択一覧表 (追加分)

平成 3 年 8 月 6 日現在

区 分 研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
特別推進研究(1)	2	0	0	0	0%
特別推進研究(2)	5 (3)	1	3	4	80%
特別研究員奨励費	48 (16) ②	29 ①	15 ①	44 ②	91%
国際学術研究	23 (8)	6	8	14	60%
合 計	78 (27) ②	36 ①	26 ①	62 ②	

() 継続申請：内数

○遺伝子実験施設：外数

理学部職員組合と理学部長との交渉

理学部職員組合（理職）と理学部長との定例の交渉が、5月20日、6月24日及び7月15日におこなわれた。この間、改革案が具体化してきたこともあり、交渉でも改革をめぐる問題が大きく取りあげられた。交渉の主な内容は以下のとおりである。

1. 昇給・昇格等の待遇改善について

6月・7月の交渉で、理職はこの間の昇格の状況について質問した。事務長は、行(一)全体で3・4・5級への昇格が計14名（4月1日付13名、7月1日付1名）であり、組合から昇格要求の出ていた図書職員については4月1日付で5級昇格が実現したと回答した。東大における技術職員の4級への昇格基準については、今年度は在職歴が削除され、3-12以上で在級6年（選考の場合7年）以上とされた点に関連して、理職は理学部における昇格状況を質した。事務長は、該当者はすべて昇格実施済みであるが、3-12に満たなかった方の昇格は実現していないと回答した。現在事務室主任だが事務主任にしてほしいと教室および理職の双方から要望が出されている職員について、理職は昇任への努力を要請した。事務長は、年度の途中でポストを設けるのは困難であり、改革の動向も考えなければならぬが、昇任へ向け努力したいと答えた。理職はさらに、4月1日付で異動があった職員の昇任、4月1日付で事務主任発令のあった職員の昇格、施設掛で条件を満たしてきている職員の昇任、及びあと2年足らずで定年を迎える事務職員の昇格を要望した。事務長は、努力すると回答した。

2. 定員外職員の定員化について

5月の交渉で、理職は定員化の見通しについて質した。学部長は、人事委員会の引き継ぎ事項として確認されているので、理学部としては関係教室からの正式な要望があれば対応していけるだろうと答えた。6月・7月の交渉で、理職はその後の関係教室の動きについて質した。7月の交渉で、学部長は、一方の教室からは口頭で定員化の要望があったこと、もう一方の教室からは定員化に関する問い合わせの手紙が来たことを

明らかにした。前者について、事務長は人事院協議採用の時機をみて対応していくと答えた。後者について、学部長は検討の上回答したいと述べた。理職は引き続き理学部当局に定員化へ向けての努力を要請した。

3. 行(二)から行(一)への振り替えについて

6・7月の交渉で、理職は以前から要望している行(二)から行(一)への振り替えについて重ねて要望した。事務長は、いまのところ動きはないが、引き続き努力すると答えた。

4. 教務職員問題について

5月の交渉で、学部長は、2名の教務職員について5月1日付で助手の発令がなされたことを明らかにした。理職は学部長・事務長の努力に感謝した。

5. 技術職員問題について

5月の交渉で、以前から要求していた技術部の部屋が1号館に確保できたことが学部長から報告された。6月・7月の交渉で、理職は、この間二名退職されたあとの組織図の空きポストがどうなるかについて質した。事務長は、ポストを埋めた案で本部と協議中であるが、本部は現在の組織図を尊重するといっているためポストは埋めてくれるだろう、と回答した。また、誰を充てるかは技術部長と相談の上で決めるが、高位号俸者を先にもっていきたいと答えた。ただし、ポストを埋める際には組織図の同じ系の人を充てる可能性を示唆した。組織図のポストを増やすことに関して、事務長は、本部の意向からみて大変困難であると回答した。6月の交渉で、理職は技官の研修費が認められたかどうかを質した。学部長は会計委員会で約100万円の枠が認められたことを明らかにした。

6. 改革問題について

5月の交渉で、学部長から配布された資料をもとに案の概要について説明があった。理職は説明会を開くよう要求した。6月の交渉で説明会が7月4日に開かれることになり、その内容をふまえた上で7月の交渉

がおこなわれた。

明らかになった理学部・理学系研究科の改組の概要は、①理学系研究科を部局化する、②特定課題の研究推進のため時限付きの共通大講座（広域理学大講座）を置く、③学部は大学科目制に改組する、④教授・助教授の比率が上がるよう教官の定数比率を変える、等である。職員の定員増に関してはほとんど望めないが、まずは理学系研究科の部局化優先で進めたいと学部長は述べた。数理科学研究科の独立についても説明があり、事務組織については基本的には現在数学科にいる職員が異動することになるだろうが、新たに職員の定員がほとんどつかないため教養学部の事務部長のもとに組織を置くというひとつの考えが示された。

7月の交渉で、理職は、数理科学研究科の事務機構について、定員増がほとんどない状態でやっていけるかという点に関して、強い疑問を表明した。学部長・事務長は、事務組織についてはこれから充分検討しなければならないことを認めた。事務長は、学部事務的な仕事に関して経験のある人が必要であるとの考えを示した。学部長は、現在いる職員の待遇改善は考えたいと述べた。

理職は、理学部の改組計画に関しても職員定員がほとんど増えないことの問題点を指摘した。その上で、事務量の増加にみあった人件費等を、理学部として別枠で確保するよう要望した。学部長は検討すると答えた。計画されている共通大講座に関連した事務はどこが受け持つかという理職の質問に対して、事務長は、理学部中央事務が引き受けるというわけにはいかない旨述べた。学部長は、事務組織についてはさらに検討したいと述べた。

理職は、行()の人がいなくなるにつれ、建物管理の仕事が事務職員等にまわってきて負担になっている点を指摘し、きちんとした定員を置くなり人を雇うなりして、建物管理に関するきちんとしたシステムを理学部として持つべきだと主張した。学部長は、検討したいと答えた。

理職は、共通大講座の設置や各専攻への大講座制導入に関連して、助手が単独で共通大講座に参加する権利・参加しない権利の保障、また助手への研究費（自由に使える校費枠）の保障を要求した。学部長は、要求の正当化を認め、各教室の自主性を尊重しつつも研

究費の配分等が民主的に運用されるよう希望すると述べた。

7. 第8次定員削減について

6月の交渉で、理職は、とりざたされている第8次定員削減について、学部長に反対の意志表示をしてほしい旨要望した。学部長は機会をみては反対したいと答えた。

編集後記

爽やかな秋風と共に、フレッシュな理学部広報第2号をお届けいたします。

懸案の「理学院計画」も、来年度からいよいよ実現の運びとなりそうです。そこで、理学院計画委員会委員長の田隅先生に最新の情報をまとめて頂きました。

又、「数理科学研究科計画」に関しましても、数学教室の砂田先生に概要をまとめて頂きました。

今回も前号同様5名の先生方から興味深い「新任教官紹介」の原稿を頂くことが出来ました。御礼申し上げます。

研究ニュースの方も18件を数え、素粒子、原子、分子の話から、生命、宇宙の話題まで実に幅広く、理学部の研究の多様さを改めて実感させる読みごたえのある内容です。

今後とも、多数の御寄稿をお待ちしております。

(内藤)

編集：

内藤周式(スペクトル)	内線	4600
横山茂之(生物化学)		4392
松本良(地質)		4525
守隆夫(動物)		4438
十倉好紀(物理)		4206
浅見新吉(中央事務, 庶務掛)		4005

印刷.....三鈴印刷株式会社